

## 登山ブームと山岳信仰

常任理事 筑井信明（朝霞市）

中高年の健康志向の高まりの一環として登山が盛んになっています。テレビでも日本や世界の山々の自然を紹介する番組が多くなりました。私も初心者ですが少し前から地元の方たちと毎月の登山を楽しむようになりました。すると山岳信仰にも関心を持ちはじめ、昨年の友の会の講演会『山岳信仰の歴史と民俗』では鈴木先生よりその深い伝統の繋がりをご教授いただきました。そして、あらためて富士山や白山、筑波山など各地域の「名山」と呼ばれる山では、ほとんどとっていいほど山頂に奥宮があり、山全体が宗教施設という形になっていることに気づきました。

そうでない山でも登山道のあちこちに素朴な石塔や小さな社殿が置かれています。多くは江戸～明治期の旧道や峠道の道標を兼ねていることが多いですが、神社の鳥居がある一方で、風雨で摩耗した菩薩像など石仏と思われるものもあり、巨石や巨木の下に置かれていることも多い。まさに神仏習合の様相をあらわしています。これはこうした山中の信仰が「修験道」という独特の形態をとっていたためと思われまふ。ここに日本の山岳登山（信仰）の歴史と特色をみることができます。

ギリシャ神話はじめ世界各地に山々や森の中の神々あるいは妖精を敬う素朴な信仰があります。こうした原始的な信仰（宗教）はほとんど文明の発展により消えてしまいます。日本でも同じで、現在では本格的な修験道はありません。しかし、今でもこうした信仰施設は大事にされていますし、登山者の多くはそれに手を合わせています。精神の一部は受け継がれていると感じます。私の少ない経験ですが、香港や韓国の山頂には信仰を示すような遺物はありませんでした。なぜ、日本でこうした信仰が現在まで生き続けているのか。山々の多くが人間の生活地域に近く、常に山容を眺めながら、その恵みを（時には災害も）実感できるためではないかと考えています。

こうした山岳信仰のひとつのあらわれが江戸から明治にかけて盛んだった山岳講—有名なのは富士講です。登山できないひと（女性も）のためにつくった富士塚は表面に富士山の溶岩が置かれています。富士塚は民間山岳信仰の様相を示すものとして各地で文化財として保護され、保存会などが中心になって山岳信仰の片鱗を伝承している地域もあります。

日本の山々は世界が認める美しさを持っています。スポーツ・観光という観点でだけとらえるのではなく、そこにある豊富な山岳信仰遺産を有効に活用していけば、新しい文化資源の創造になるような気がします。「信仰の対象と芸術の源泉」は富士山だけではありません。

＊

富士山とならんで盛んだったのは木曾おんたけさんの御嶽山信仰ですが、埼玉県に、普寛行者という御嶽講の普及に尽くした人がいます。普寛は秩父市・大滝村で生まれた修験道者で、寛政4年（1792）、木曾の御嶽山に、厳しい修行をした道者だけでなく一般にも開放された新しい登山道を開きます。この「王滝口」登山道は故郷である「大滝村」にちなんでいともいわれます。普寛は他にも多くの山を開いていますが、地元・秩父ちちぶおんたけさんの秩父御嶽山もこの普寛が開山し、名づけられた山です。先日、この山に登ることができました。山頂（1080メートル）は狛犬が鎮座し、階段もある小さいながら立派な社殿の普寛神社の奥宮になっています。「御嶽大神」が祭られているようです。

次回の友の会理事サポーター会議：3月16日（土）10時より講座室

**今後のイベントスケジュール** \*申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。  
 ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 2月23日 (土) 講演会「保存と修復から仏像を再考する」 <前号で紹介>
- 3月13日 (水) プレミアム講座「地域に寄り添った旗本の話」 <今号で紹介>
- 3月16日 (土) 講演会「蘇我氏の興亡」 <今号で紹介>
- 3月27日 (水) 見学会「春風にのって蔵の街めぐり 栃木と結城」 <今号で紹介>
- 3月30日 (土) 第27回鎌倉街道を訪ねて 羽根倉道番外編その3 (延期分) <今号で紹介>

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 ・ 会員限定 ・ プレミアム講座

# 地域に寄り添った旗本の話

## ～ 旗本・水野氏と寄居 昌国寺 ～

「旗本」というと、どの様なイメージをお持ちでしょうか。江戸時代、武蔵国には将軍の家臣団である旗本の知行所が数多く置かれていましたが、旗本と地域との関係はあまり知られていません。実は旗本の中には知行所に菩提寺を設け、村や菩提寺と関わる旗本も多かったです。2月5日より開催されている特集展示「旗本・水野氏の菩提寺 昌国寺」では、埼玉の地に寄り添った旗本水野氏の姿が窺えます。本講座でその一端を知りたいものです。

講師の中村さんは、日本近世史を専攻され、常設展示室(江戸時代)の展示担当です。今年度の企画展「古文書 大公開！」に関わられた外、過去の特別展「徳川家康」に関連して「埼玉の東照宮」のお話を当講座で伺ったこともあります。

**講師 中村 陽平 氏 当館学芸員**  
**とき 2019年3月13日(水) 13:30～14:30**  
**ところ 当館講堂 ご参加無料**

申込方法: 他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。  
 通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。  
 締切: 3月6日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。  
 〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会  
返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。\*「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からも参加申込みできます。(返信はいたしません)

### クラブ活動 (募集中)

## ◆ 第27回鎌倉街道を訪ねて 羽根倉道番外編その3 (2/9延期分) ◆

2019(平成31)年3月30日(土) 「古道探索倶楽部」のお知らせ

- <<日時>> 2019年(平成31年)3月30日(土) 9時30分～15時30分(予定)
- <<集合>> 埼京線 戸田公園駅改札口周辺 9:30
- <<コース>> 埼京線戸田公園駅⇒多福寺⇒早瀬渡船場跡⇒荒川・笹目橋⇒赤塚諏訪神社⇒東京大仏⇒松月院⇒泉福寺⇒増福寺⇒東武東上線下赤塚駅
- <<費用>> 資料代等・参加費 300円
- <<その他>> 途中でコンビニが少ないので、お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。
- <<問合せ先>> 前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017
- <<参加申込み>> 3月22日(金)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

## 蘇我氏の興亡

—蘇我氏の誕生、本宗の滅亡とその後—

蘇我氏は日本史上あまりに有名ですが、出自、事績などよく分かっていない謎多き氏族です。蘇我氏が歴史の表舞台に登場するのは日本書紀・宣化元年（536年）条の「又蘇我稲目宿禰を以て大臣とす」からで、以来馬子—蝦夷—入鹿と続く蘇我氏は先進の知識・技術の取入れなど開明派として政治の中枢を担う。だが反感も多く、645年の「乙巳の変」で滅亡する。

だが滅亡したのは本宗だけで、傍流の蘇我倉麻呂（蝦夷の弟）の子である蘇我倉山田石川麻呂は改新政府で右大臣、弟の連子、赤兄も後に大臣、左大臣となっている。壬申の乱では大友方として敗れたため倉麻呂系も没落するが、その中で連子の子の安麻呂は天武朝の信認厚く石川朝臣の姓氏を賜っている。

また連子の娘蘇我娍子は藤原不比等の室で、武智麻呂、房前・宇合を儲けている。安麻呂の子の石川石足とその子年足は武智麻呂を祖とする南家と結ぶが、南家が藤原仲麻呂の乱で衰退すると、石川真守（年足の孫、馬子の7代孫）を最後に歴史から消えていく。

蘇我氏を知れば古代史にも一段と興味が湧くというものです。先生にはこの蘇我氏について、誕生から藤原氏が台頭する奈良時代までの興亡の歴史を追っていただきます。

---

**講師：** **吉村武彦 先生**（明治大学名誉教授）

**日時：** 平成31年3月16日（土） 午後1時半～3時

**場所：** 当館講堂

東武アーバンパークライン（東武野田線）  
大宮公園駅下車徒歩5分

**参加費用：** 300円

当日は返信はがきをお持ち下さい。

---

ご参加のお申し込みは、往復はがきに 講演会名・住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号 を明記し、返信面にも住所・氏名を記入の上、下記宛先まで。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-2-19 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

締切 : 3月5日（火） 定員（150名）を超えた場合はお断りすることもあります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

～下野・常陸の歴史探訪～



春風によって蔵の街めぐり栃木と結城  
関東平野を見渡す謙信平  
神々の伝承を今に感じる太平山神社

〈見学コース〉

- ・栃木市内：とちぎ蔵の街観光館⇒とちぎ蔵の街美術館⇒とちぎ山車会館⇒旧市役所別館⇒神明宮・近龍寺⇒うたまる館⇒第一駐車場
- ・昼食：太平山名物が味わえる「もみじ庵」で、そば定食を賞味します。
- ・太平山神社：御神徳記によれば太平山神社は瓊瓊杵命（ににぎのみこと）、天照皇大御神（あまてらすおおみかみ）、豊受姫大神（とようけひめのおおかみ）をはじめ、多くの神様をお祀りしています。また、古い昔から「天下太平を祈る社」として信仰され、多くの人々の心を支え続けています。
- ・結城市内：全国的に有名な結城紬（国の重要無形文化財）で知られ、鎌倉時代から城下町の基礎を形成しており、茨城県はもとより関東でも有数の古い城下町で、市内に二十五という数多くの寺院があります。また、神社も数多く、蔵づくりの街並みとともに歴史深さを感じさせる街でもあります。☆結城駅前の「観光物産センター」でお買い物。

〈行程予定〉

大宮—県道3号大宮栗橋線経由—東北道久喜インター—東北道栃木インター—蔵の街第一駐車場—もみじ庵(昼食)—太平山神社—県道31号—結城市役所駐車場—国道50号経由—東北道佐野藤岡インター—東北道岩槻インター—県道2号(旧国道16号)経由—大宮(18時帰着予定)

〈ご注意〉

太平山神社では鳥居から本殿まで石段がありますので、必ず歩きやすい服装・靴でお出かけください。

日時：平成31年3月27日（水） 雨天決行

出発：午前8時00分（発車時間です \*時間厳守）

集合場所：大宮駅西口・ソニックビル西側（友の会旗を掲げています）

参加費：7,000円（当日集金）

〈ご参加のお申込みは～〉

- ・締切り：3月5日（火） ・定員：45名(先着順)
- ・会員限定ですがご家族、ご友人は参加できます。
- ・申込方法：往復はがきに、会員番号・氏名・住所・電話番号(できれば携帯)を記載して下記宛先までお送りください。
- ・宛先：〒330-0852 さいたま市大宮区大成町3-503-4 高瀬 敏男 宛
- ・座席の希望・集合場所地図を希望の方はハガキに付記してください。
- ・見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先：080-7526-4332 事務局 高瀬 敏男